

伝統の床たたきを
新しい工法で再現した
新感覚塗床材「たたきくん」



TATAKIKUN

珪藻土配合たたき風床仕上材

改良新発売

二瀬窯業株式会社

床にも珪藻土の優しさを……
安心のシステム施工で



たたきくん

珪藻土配合たたき風床仕上材

たたきくんは進化して1材型の材料に

これまでの「たたきくん」は、施工時「たたきくん(主材)」1袋につき「たたきくん硬化液」(液体)を1本混入する必要がある2材型でしたが、原材料を見直し、配合を工夫することで2材型材料よりも強度アップを実現しつつ硬化液の要らない1材型の材料に進化しました。(令和7年7月)



LIFE SCENE WITH **TATAKIKUN**



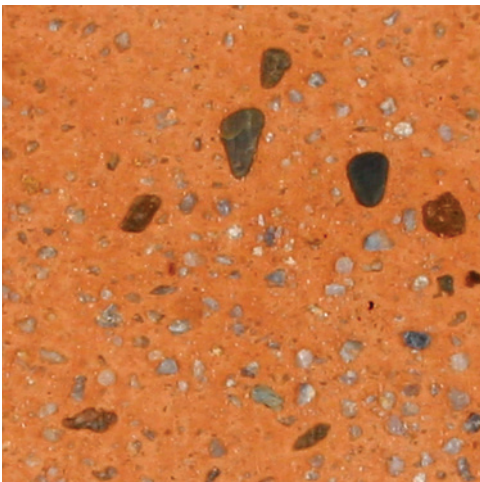
標準色

本ページに記載の色調は、実際の色調と異なります。

Standard colors of **TATAKIKUN**



① しろ



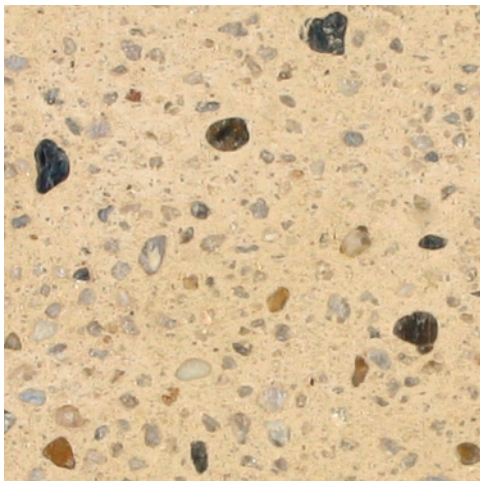
② あか



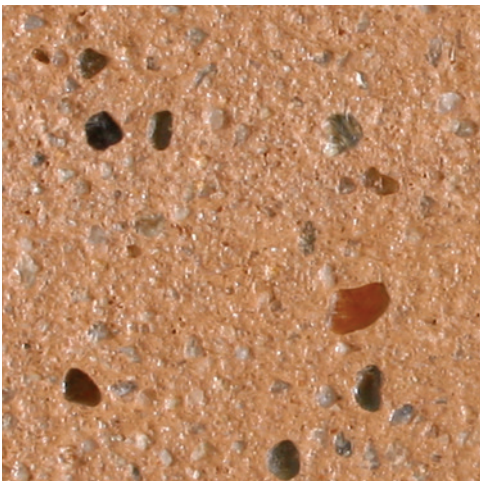
③ ちゃ



④ はい



⑤ き



⑥ もも

製品の特長

FEATURES AND BENEFITS OF **TATAKIKUN**

「たたきくん」は、古来より伝統の三和土を現代的な工法で再現しました。産地を厳選した上質な珪藻土を配合し、床面に優美さをプラスします。水を流すことなく石目を出すことが出来る為、室内の施工にも最適です。玄関ポーチや坪庭のアクセント等にもアイディア次第で用途は広がります。

製品プロフィール

たたきくん	珪藻土配合化粧仕上材(床面専用)
適用下地	モルタル・コンクリート
適用部位	内外装床面

(たたきくん)			
日本建築仕上材工業会登録	登録番号	1004020	
放散等級	F☆☆☆☆		
問合せ先	http://www.nsk-web.org/		

(たたきくん下塗材)			
日本建築仕上材工業会登録	登録番号	1004022	
放散等級	F☆☆☆☆		
問合せ先	http://www.nsk-web.org/		

試験成績表

右記の試験結果は、試験方法によって定められた条件によって得られたデータであり、実際の現場での性能を保証しているものではありません。

二瀬産業株式会社 試験室

試験項目		単位	試験結果			備考
耐摩耗性 摩耗減量 (※1)	回転数	g	P-VII(※2) 塗布	P-VII(※2) 未塗布	1:3 モルタル	テーバー式 摩耗輪：H-22 試験荷重：500g 回転速度：60rpm
	600		2.60	3.41	3.95	
	1200		4.48	5.12	6.28	
標準付着強さ		N/㎡	1.20			JIS A 6916建築用下地調整塗材に準ずる。
温冷繰返し後の付着強さ		N/㎡	1.64			※ただし下塗材はたたきくん下塗材を用いた。
曲げ強さ		N/㎡	6.9			JIS A 1171ポリマーセメントモルタルの試験方法に準ずる。 ※ただし脱型後は養生終了まで気中養生とした。
圧縮強さ		N/㎡	35.0			
長さ変化率		%	0.09			

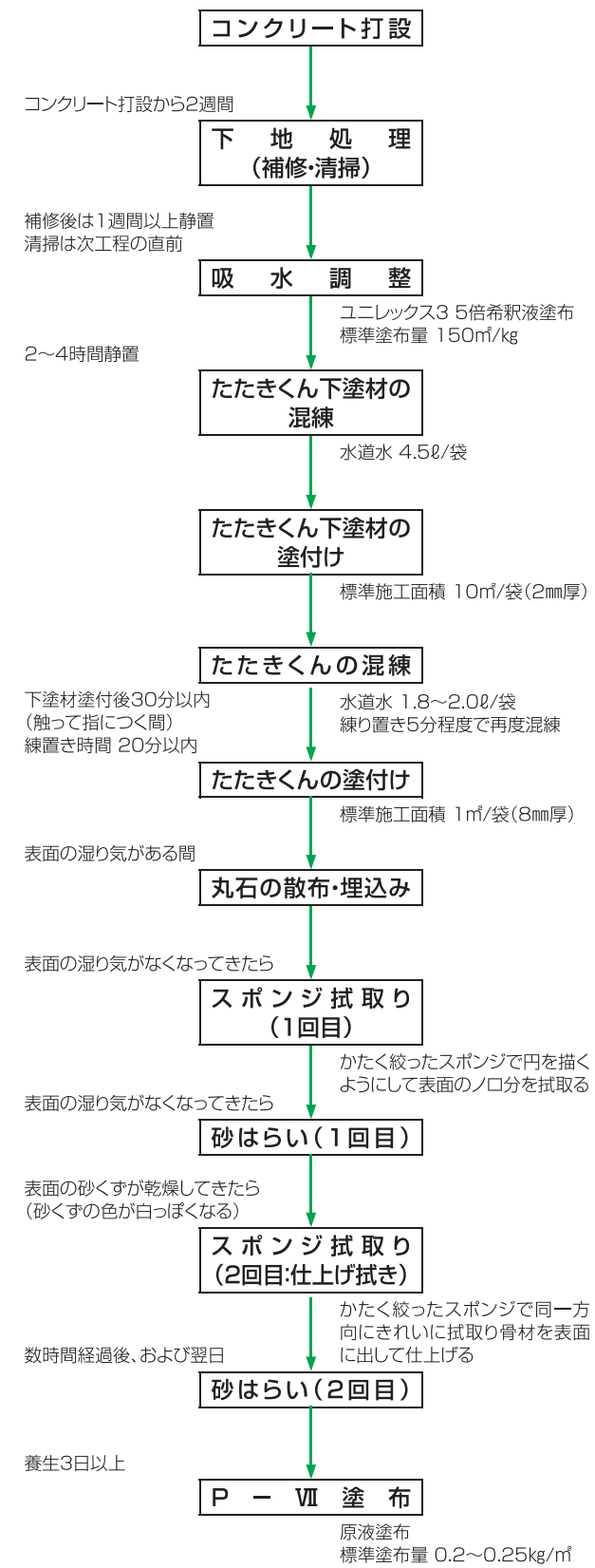
※1 摩耗減量は、数値が小さいほど耐摩耗性に優れていることになります。

※2 「P-VII」は、浸透性強化材です。

施工手順

詳しくは、施工要領書をご請求ください。
※新しい技術情報等の入手により断りなく改訂することがありますことをご了承ください。

施工フローチャート（施工厚:10mm）



施工前の注意点

コンクリート及びモルタル以外の下地のときには
施工を行なわない様にしてください。

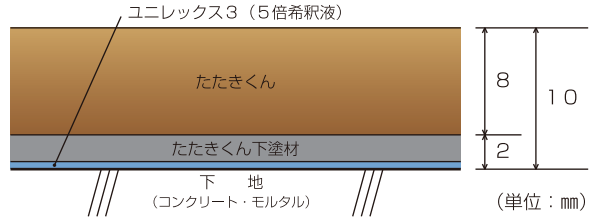
車の乗り入れる場所は、割れ、削れの恐れがあり
ますので、使用しないでください。

- ・事前に施工場所を確認し、水勾配（排水）の設計等を適切に行ってください。
- ・常時、水掛かりがある場所はコケが生える恐れがあります。
- ・階段など出隅部分は、角が欠ける恐れがあります。
- ・椅子等で同じ場所ばかり引きずると、削れる恐れがあります。
- ・局部的な力が定常的に加わるような部位（駐輪場等）に施工すると削れてくる恐れがあります。
- ・油污れ等の染みこむ汚れは除去しにくくなる場合があります。
- ・気温が5℃以下及び5℃以下になりそうな時は、施工を行わないでください。
- ・下地を十分に乾燥させた後、施工を行ってください。

施工に必要な道具（一例）



たたきくん施工断面図



1.下地処理（事前工事）

1-1 コンクリート下地への施工

- ・コンクリート打設後、2週間以上養生してください。養生期間が短いと、たたきくん施工後、色ムラやひび割れ等の恐れがありますので、必ず下地は十分に養生してください。
- ・レイトンスや油類等が表面に付着している場合は、高圧洗浄機などを使用してこれを除去し、清掃を行ってください。
- ・コンクリートの極端な凸部や脆弱部分は、サンダー等で除去し、必要なら補強を施してください。
- ・極端な段違い部や凹部は、ポリマーセメントモルタル（ベース#40など）を充填して補修してください。
- ・鉄筋が見えている場合には、必ず錆止め剤を施してください。
- ・大きなクラックは、Vカットしてポリマーセメントモルタル（ベース#40など）を充填して補修してください。
- ・施工前日に降雪雨や夜露などの可能性がある場合、施工面が濡れないようにシート養生を行ってください。

1-2 モルタル下地への施工

- ・たたきくん下塗材をよく密着させるため、下地のモルタルは木ゴテで表面を仕上げてください。
- ・モルタル塗り付け後、1週間以上養生してください。養生期間が短いと、たたきくん施工後、色ムラやひび割れ等の恐れがありますので、必ず下地は十分に乾燥させてください。
- ・施工前日に降雪雨や夜露などの可能性がある場合、施工面が濡れないようにシート養生を行ってください。

2.伸縮目地の設置

2-1 伸縮目地の設置

- ・伸縮目地の設置間隔は約3mおきに（目安としては、目地で囲まれた面積が約10㎡以内）、また、コンクリートのひび割れ誘発目地の位置に設けるようにしてください。

2-2 伸縮目地の設置方法

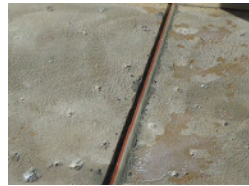
I. 埋め込み目地（真鍮目地 等）を使用する場合



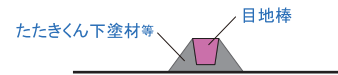
- (1) 真鍮目地棒をしっかりと固定してください。
- (2) その後、たたきくんの施工を行ってください。
- (3) 真鍮目地棒は、幅5mm程度のものの使用をお勧めします。

II. 目地棒除去後、たたきくんで埋め戻す場合

(1) 目地棒の取り付け



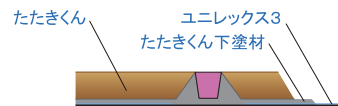
たたきくん下塗材などで、目地棒を取り付けてください。目地棒は、発泡目地を使用することをお勧めします。



(2) たたきくん施工



目地棒を取り付けた翌日、たたきくんの施工を行ってください。

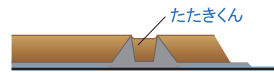


(3) たたきくん埋め戻し



目地棒を取り除いた後、目地部分に篩って荒い骨材を取り除いたたたきくんを塗り付けてください。

※ 深目地にするか、面一にするかは、各現場でご判断ください。



施工手順(続)

詳しくは、施工要領書をご請求ください。
※新しい技術情報等の入手により断りなく改訂することがありますことをご了承ください。

3.下地の清掃



- ・塵や粉塵などは、掃除機やブロアー等で十分に除去してください。

4.吸水調整



- ・左官刷毛等を使用し、施工面全面にユニレックス3の5倍希釈液にて、吸水調整を行なってください。
- ・吸水調整材を塗布した下地表面が完全に乾いて透明になってから、次の工程に進んでください。目安としては、2～4時間です。（気象条件により異なります。）

5.たたきくん下塗材の塗付け

5-1 たたきくん下塗材の混練

- ・たたきくん下塗材に規定量の水道水（4.5ℓ/袋）を加え、モルタル用かくはん機等を使用し十分に混練してください。（標準施工面積：約10㎡）



5-2 たたきくん下塗材の塗付け



- ・吸水調整の完了した下地に、たたきくん下塗材を十分にコテ圧をかけてしごき塗りをを行い、追っかけてすぐに、2mm程度の厚みまで塗り付けてください。
- ・たたきくん下塗材を触って指に付く間に、たたきくんの塗付を行ってください。目安としては、たたきくん下塗材施工後、30分以内です。（気象条件、下地の状況により異なります。）

6.たたきくんの混練



- ・たたきくに規定量の水道水（1.8～2.0ℓ/袋）を加え、モルタル用かくはん機等を用いて十分に混練してください。



- ・5分程度練り置き後、練り返して使用してください。
- ・練り混ぜ水は、きれいな上水道水とし、台秤または計量カップを使用して計量してください。
- ・施工軟度の目安としては、バサモルタルより少し軟らかい程度です。
- ・同一現場においての練り水は、はじめに決めた水量で継続して計量してください。施工の途中で練り水量が変わると、色ムラ等の原因となります。
- ・練り水量が多いと、耐摩耗性の低下やひび割れなどの原因となります。また、仕上がりまでの時間が長くなりますので、練り水量は厳守してください。
- ・練り置き時間は20分程度です。また、水を入れての練り返しや練り足しは絶対に避けてください。

- ・モルタル用かくはん機の羽根は、アルミ製のものを使用しないでください。
- ・練上げた材料は直射日光を避け、シート掛け等で水分の蒸発を防いでください。

7.たたきくんの塗付け



- ・たたきくん下塗材を塗付け後、たたきくん下塗材が乾ききらないうちに追っかけて、たたきくんを所定の厚み（8mm程度）まで十分にコテ圧を掛けて金ゴテで平滑に塗り付けてください。

- ・次工程以降は、直接仕上げ面には乗らず、スポンジ下駄を使用するか敷板等の上に乗って施工してください。
- ・水を使用するバケツについても敷板の上に載せ、仕上げ面に水がかからないように注意してください。

8.定木すり



- ・たたきくん塗付け後、定木すりを行い、平滑に整え、木ゴテでよくもみ込んでください。

9.丸石の散布と埋め込み

9-1 丸石の散布



- ・たたきくに湿り気があるうちに、丸石バックを散布してください。
- ・丸石の散布量は、お好みにより調整してください。

※ たたきくんが乾燥すると、丸石が馴染み難いので注意してください。

9-2 丸石の埋め込み



- ・金ゴテ等を使用して丸石を埋め込み、軽く頭はりを行ってください。
- ・丸石がたたきくんで、少し被る程度まで埋め込んでください。

丸石が馴染みにくくなった場合

真夏の施工時等、たたきくんの表面が乾燥して丸石が馴染みにくくなった場合は、水を含ませてかたく絞ったスポンジで表面を軽くなでて、たたきくんと丸石を馴染ませてください。

- ・次工程までは表面の湿り気が無くなる程度（スタイロフォームを敷いて上に乗れる程度）まで養生してください。

10.スポンジ拭取り(1回目)



- ・たたきくんの表面の湿り気がなくなってきたら、水を含ませてかたく絞ったスポンジで円を描くようにして表面のノロ分を拭き取ってください。

- ・拭き取り具合で表面の砂目の出し方を調整してください。

スポンジの水分が多いと、色むらや白華の原因となりますのでご注意ください。

Application steps of **TATAKIKUN**

11.砂はらい(1回目)



- ・最後に拭き上げた時点から10～30分程度経過後、表面に残った砂くずを乾いた左官刷毛等で、軽く取り除いてください。

※ 強く掃くと表面が削れてしまいますので、注意してください。

12.スポンジ拭取り(2回目：仕上げ拭き)



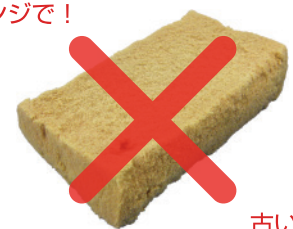
- ・たたきくんの表面の砂くずが乾燥して(砂くずの色が白くなって)きたら水を含ませてかたく絞ったスポンジで同一方向にきれいに拭き取り、砂目を出して仕上げてください。

- ・スポンジで同一方向に拭き取らないと、光の当たり具合によって見栄えが変わるおそれがあります。

スポンジの水分が多いと、色むらや白華の原因となりますのでご注意ください。

- ※ スポンジは常にきれいな面を使用するようにし、こまめに洗って使用してください。

拭き取りは出来るだけ新しいスポンジで！



古いスポンジでは仕上がりが悪くなります



ISO 14001取得企業



二瀬窯業株式会社

<https://futaseyogyo.co.jp/>

本 社・工 場	福岡県飯塚市横田669 〒820-0044 TEL 0948-22-0447 FAX 0948-29-0289
関 東 工 場	千葉県木更津市新港15-8 〒292-0836 TEL 0438-30-7372 FAX 0438-30-7472
福 岡 営 業 所	福岡県飯塚市横田669 〒820-0044 TEL 0948-22-0447 FAX 0948-29-0289
東 京 営 業 所	東京都港区芝2-27-8 マスマンビル2F 〒105-0014 TEL 03-6453-6685 FAX 03-6453-6686
名 古 屋 営 業 所	愛知県清須市西枇杷島町弁天45 ヤマモリビル1F 〒452-0006 TEL 052-509-2485 FAX 052-509-2486
大 阪 営 業 所	大阪府大阪市港区市岡元町2-8-18 ワールドビル2F 〒552-0002 TEL 06-6583-3310 FAX 06-6583-3325